

もしあなたやあなたの家族が感染し、差別を受けたらどう感じますか

●問い合わせ先 人権啓発教育課 ☎(248)2399

県内でも新型コロナウイルス感染症の感染拡大が広がっています。その中で、感染した人や家族、医療従事者などへの不適切な扱い、誹謗中傷などが各地で相次いでいます。

〇〇に行ったから
コロナになったらいいよ

やめてほしいよね
自己責任だし迷惑だわ

自己管理ができて
ないから感染するんでしょ

誰もが望んで感染したわけではなく、誰だって感染する可能性があります。

もし、あなたやあなたの家族が感染し、周囲の人やインターネット上で誹謗中傷を受けたら、どう感じますか。このような状況だからこそ、私たち一人ひとりが相手の立場になって考え、思いやりをもち、みんなで力を合わせて乗り越えましょう。

心がけましょう

- ・うわさや憶測、ネット上の誤った情報に惑わされない
- ・不確かな情報、誹謗中傷をSNSなどで拡めない
- ・国や県、市町村が発信する正確な情報に基づいて行動する

※新型コロナウイルス感染症に関する情報は、市または県のホームページをご覧ください。



市ホームページ



県ホームページ

相談・問い合わせ先

- みんなの人権110番
- (全国共通人権相談ダイヤル)
- ☎0570(003)110
- 子ども人権110番
- (全国共通通話料無料)
- ☎0120(007)110
- 合志市役所 人権啓発教育課
- ☎(248)2399

ウイルスに負けない歯磨き

●問い合わせ先 高齢者支援課 包括支援センター班 ☎(248)1126



新型コロナウイルスによる感染が拡がり、マスクや手洗いなど予防行動の呼び掛けが続く中、意外に触れられていないのが、口や鼻の健康維持の大切さではないでしょうか。

本市のちぢい歯科クリニックの千々岩俊之院長に、ウイルスに負けない歯磨きについて伺いました。

その方法は、朝起きたら朝食前に一度歯磨きを行ない、口の中の細菌をできるだけ取り除いておくことです。

でも、寝る前にきちんと歯磨きをしたのに、どうして朝食前にも歯みがきが必要なのでしょうか。

インフルエンザを例にとると、口から入ったウイルスは、口の中の歯周病などの細菌が出すタンパク分解酵素(プロテアーゼ)に出会うことで正常な細胞にくっつくことができるようになります。これが感染です。

つまり口の中の細菌が多いとウイルスに感染しやすくなるわけです。反対に細菌(タンパク分解酵素)と出合わないければ、細胞に感染しないのです。

この機会に、朝食前の歯磨きを生活習慣に取り入れられてはいかがでしょうか。



これは、岡山大学病院スペシャルニース歯科センターの診療講師、岡崎好秀さんが提案する、従来のインフルエンザウイルス対策に準じた、口と鼻を健やかな状態に保つことで体の免疫力を維持する取り組みです。

皆さんが起きて活動している間は、常に出ている唾液の殺菌作用で口の中は結構きれいに保たれています。ところが眠っている間は唾液があまり出なくなるため、朝起きてすぐの口は、一日の中で最も細菌が多い状態になります。

だから、朝起きてすぐ歯磨きをすることで、ウイルス感染リスクを減らすことが可能になるのです。

食後の歯磨きは、むし歯や歯周病予防のため、朝起きてすぐの歯磨きはウイルス感染防止のため、ということになります。

この機会に、朝食前の歯磨きを生活習慣に取り入れられてはいかがでしょうか。



人権教育シリーズ④

西合志南中学校の取り組み

●問い合わせ先 人権啓発教育課 啓発教育班 ☎(248)2399

新型コロナウイルス感染症と向き合って 昨年度末からの新型コロナウイルス感染症で、誰も経験をしたことのない3カ月の休校からスタートした本年度。学校再開から1カ月が経ち、新しいクラスでの仲間づくりも軌道に乗りつつあります。

今、西合志南中学校では、感染拡大防止の徹底とともに、今回の新型コロナウイルス感染症をめぐる差別問題を、自分のこととして捉え、正しく知り、改めて差別や偏見を許さない生徒を育成するための取り組みを行っています。

正しく知る大切さ

正しく知らないことは、予断や偏見、差別を生みます。新型コロナウイルスについても、まずは正しく知ることが大切で、



そこで、休校期間中に、全職員で研修を行ないました。養護教諭から、ウイルスの特徴やその感染経路、感染リスクを

減らす行動などについて、詳しく学びました。そして学校生活の中で、どのようなリスクがあり、どの場面で対策が必要か、議論を行ないました。さまざまな報道によって不安をおられることなく、正しく知り、判断していくことを職員全員で確認しました。

憎むべきは人ではない

学校再開初日。全校一斉に、1時間目の授業は人権学習をしました。新型コロナウイルス感染症をめぐって、人を大切にできない言葉や行為が、たくさん報道されています。一方で、ごみの収集作業員の皆さんへの感謝のメッセージや医療従事者の皆さんへの敬意を込めた熊本城のライトアップなど、心温まる出来事について考えました。



自分自身を振り返って、これからの生き方や、新型コロナウイルスとの向き合い方を、生徒一人ひとりが考え、発表しました。

- ・悪いのはウイルスなのに、「看護師さんだから感染している」と決めつけているところが偏見だし、おかしいと思った。
- ・正しく恐れることが大切だと感じた。ちゃんと知らずに、人を傷つけるのはもっと怖いと思った。
- ・今、こんな状況だからこそ協力し合いたい。
- ・差別されるのは、怖い。誰がかかっているかわからないし、いつか自分もかかるかもしれない。でも、かかりたくてかかっている人はいないと思う。だから、自分は絶対に差別をしない。
- ・頑張っている人を応援できる人になりたい。

生徒感想から一部抜粋

人の距離はあけて、心の距離は近く 学校が再開しても、接触は避け、できるだけ人との距離を必要があるります。しかし、「そんな時だからこそ、心の距離を近づけよう」と、生徒会執行部が中心となって『学校再開うれしい、楽しい、大好き』プロジェクトと題して、さまざまな取り組みを企画しています。



上の写真は、給食時の生徒会放送を収録しているところです。現在、給食では班を作ることや、会話をす

ることはできません。そのため、生徒会執行部が中心となって、お昼の放送をラジオ風に制作し、放送しています。委員会からの連絡はもちろん、全校生徒から募集した、学校が再開してうれしかったこと、楽しかったことを紹介しています。また、なぞなぞを出したり、冗談交じりのかけ合いがあったりと、にぎやかです。西南中に、「毎日の楽しい給食時間を届けたい」という思いが伝わってきて、学校全体が温かい気持ちになっていきます。



下の写真は、体育委員会主催のバイバイアーチです。あいさつ運動の一環として、各委員会が持ち回りで担当し、帰りのあいさつ後に各教室の入口でアーチを作り、あいさつと見送りをしてくれます。「バイバイ、また明日ね」「バイバイ」と互いに声をかけ合っています。明るいあいさつを交わすことで、心は密になるように頑張っています。

新しい生活様式にも少しずつ慣れ、日常化しつつあります。けれど、こんな今だからこそ、人と人との心のつながりを大切に紡いでいく良い機会だと捉えています。これからは、教師と生徒が共に知恵を出し合い、人権教育を基盤とした温かい学校づくりを進めていきます。